

## RWDコンサルティングサービスを開始 製薬企業・医療機器メーカーの課題解決へ

医療情報のネットワーク化を推進するメディカル・データ・ビジョン株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：岩崎博之）は、企業のリアルワールドデータ（RWD）活用を伴走して支援するコンサルティングサービスを開始しましたのでお知らせいたします。

多くの製薬企業・医療機器メーカーの各領域でRWD活用が進んでいます。その反面、データ分析人材の不足や有効活用できていないなどのお悩みが増え、当社にも多数のご相談が寄せられています。そこで、当社のオンコロジーや希少疾患領域でのデータの強みを最大限発揮し、企業のRWD活用によるビジネス価値をさらに引き出すことを目指します。

### こんな課題ありませんか？

RWDを活用したいが、どのようなデータが存在し、どのようにRWDを活用できるかわからない

アドホック調査を利用しているが、データセットや集計レポートを十分に活用できていない

自社製品がスイッチングされ、シェアが低下している要因をうまく特定できない

製品拡販に向けたマーケティングプランの構築等に必要な課題設定の精度が十分ではない

設定した課題を解消したいが、効果的な戦略・取組の立案や実行ができていない

複数チャネル・施策を実施したものの、チャネル・施策ごとの効果を検証できていない

### 弊社サービスのご紹介

#### 0 RWD利活用設計

貴社の製品、実現したいことに応じたRWD利活用の設計をご支援

#### 1 アドホック調査＋

RWD分析人員による小回りの利くご支援  
(迅速かつ柔軟な分析 / マネジメント向けレポート資料作成 等)

#### 2 要因分析

RWD、市場・製品調査  
から原因仮説構築

患者・医師インタビュー  
を通じた仮説検証

#### 3 課題設定

課題の洗い出しと優先順位設定

#### 4 施策検討

目的に応じた戦略立案  
および取組施策の策定

実行にあたる伴走支援とモニタリング

#### 5 効果検証

各チャネル・施策のROI分析  
(マーケティング・ミックス・モデルの導入)

アドホックから効果検証まで一気通貫にご支援

## サービス詳細およびユースケースのご紹介

### 直面している課題

地域単位・疾患単位でのシェアが補足できずマーケティングに非効率が発生している

### 提供サービス例

#### エリア特性分析によるリソース配分最適化

- データモデリングにより、地域医療圏単位で特定疾患の治療方針、地域医療圏の人口や医療体制等を加味した分析を行い、傾向および製品シェアを把握可能。その要因や今後の予測に関する示唆を導出し、販売戦略の見直しや拠点設置戦略へ活用可能

（例）医療機器XXXの利用動向は特にXXX地域で高く、XX%のシェアを占めている。その要因はXXXであり、XXXに推移する見込  
→XXX地域での営業形態をベストプラクティスとして、他地域に波及させることで営業力を強化

### イメージ



マーケティング施策を実施しているが、各施策の効果が見えない

#### マーケティング・ミックス・モデリング構築

- 目的変数および説明変数、分析モデルを設定し、競合動向や季節性などの外部要因、Web講演や広告などのマーケティング施策の効果を統計手法を用いて分析し、各施策の費用対効果を可視化。結果をもとに各施策のアロケーションに活用可能

（例）施策XXXを実施した場合の想定効果はXXXの予測値、またチャネル毎のROIはXXXであり、XXXチャネルが最も効果的  
→XXXチャネルへの予算配分を縮小し、YYYチャネルへの配分を増大させることでより効率的で効果的な施策推進を実現



患者体験を踏まえた効果的な情報提供を行えていない

#### プロモーションコンテンツの最適化

- がんおよび希少疾患の治療にあたり、データモデリングのうえでペイシエントジャーニーを追うことで医薬品・医療機器を用いた治療のアウトカムを捕捉し、新たなプロモーション材料として治療効果を導出  
（例）希少疾患XXXについて、機器XXXによる治療を受けた患者は、機器YYYによる治療を受けた患者よりもXXXの経過が良好  
→機器XXXのプロモーションに活用し、機器XXXの売上拡大に寄与



患者が自社製品から他社製品に切替しており、シェアが低下してしまっているが、その原因を特定できない

#### 要因分析・課題設定からのマーケティングプラン構築

- ペイシエントジャーニーを追うことで、特定疾患に対する各治療オプションの継続率および切替率を分析し、医療機器が選ばれなくなった理由を明らかにすることで医療機器の品質見直しにあたるインサイトを提供したうえでマーケティングプランを構築  
（例）機器XXXから機器YYYにスイッチされている変化を追い、治療内容や処方傾向、カルテ情報などからスイッチ原因を類推  
→製品のスイッチ原因を踏まえ、機器の改良による将来的なシェア獲得に繋げる



当社は科学的根拠に基づく医療（EBM＝Evidence Based Medicine）を後押しするために2008年4月からデータ活用サービスを開始しました。診療データベースの実患者数は2020年に3000万人、2022年に4000万人をそれぞれ超え、ついに2024年12月末で5029万人となりました。

まずはお気軽にご相談ください。

<本件に関するお問い合わせ>

EBM推進部

MAIL : ebm\_sales@mdv.co.jp